

## 高精細デジタル画像の応用に関する調査研究 (①情01-10-5/5)

### 目 的

本調査研究は、前の中期計画5カ年中に開発した高精細デジタル画像形成の手法を用い、着色仏画・彩色壁画・油彩画・日本画・漆絵などの美術品を対象とし、それぞれについて、1) 光に対する物性の検討、2) 光物性の画像化に関わる技術開発、3) 形成画像の汎用的な活用法(表示・出力)に関する条件整備を行い、広範な文化財研究を支援するために不可欠な研究画像を形成し、それらを応用・利用する方法を探ることを目的とする。

### 成 果

#### 1. 他機関との共同研究・報告書の刊行

本研究は、先の中期計画において開発した画像形成技術を用いた画像の汎用的な活用・運用を行う方法・技法の研究に重点を置いている。脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財を間近で精査・鑑賞する機会は限定されている。文化財の高精細な画像や特殊撮影画像を公開し、多目的な利用に供することは、文化財への理解を深め、実物の保存と共に活用の道を開く有効な方法である。デジタルコンテンツの多目的利用の一環として、①平成17年度に行った平等院との鳳凰堂仏後壁の共同研究成果のうち『平等院鳳凰堂調査資料目録—蛍光線画像編』を刊行した。また、②平成21年度に行った奈良国立博物館との共同研究成果を『大徳寺五百羅漢図報告書』として刊行した。

#### 2. 今年度の他機関との共同調査研究

- ① 宮内庁三の丸尚蔵館(「春日権現験記絵巻」の調査撮影12/13-17、20-22)
- ② 奈良国立博物館(「信貴山縁起絵巻」の調査撮影5/9-15、研究協議会11/1)
- ③ 徳川美術館(「歌舞伎図巻」「本多平八郎姿絵屏風」の調査撮影6/14-18、11/22-27)

#### 3. 徳川美術館との共同研究調査の成果公表を行うために『近世風俗画共同研究調査報告会』を当所階セミナー室で開催し(江村知子「歌舞伎図巻の描写について」、吉川美穂(徳川美術館学芸員)「本多平八郎姿絵屏風の表現について」、これに併せて徳川美術館所蔵の「歌舞伎図巻」の高精細デジタル撮影による原寸大画像、及び「本多平八郎姿絵屏風」の拡大画像の展示を行った(1/29)。

### 研究組織

- 津田徹英、田中淳、山梨絵美子、勝木言一郎、塩谷純、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子(以上、企画情報部)